集落協定の連携_広域化等

【奈良県山添村伏拝（やまぞえ　ふしおがみ）集落協定】

集落協定と連携し、農業用機械を購入して共同利用

○農業用機械の共同購入・利用。
○集落協定を統合することで事務の効率化を図り、さらに持続的な集落を目指す。

地区の課題

担い手の高齢化

地域の担い手が高齢化し、兼業農家ではそのほとんどが後継者のいない状態にあり、農業用水路、農道等の共同管理を行うことも困難になってきていた。

【共同活動（水路掃除）】

取組内容

集落営農組織の設立

平成23年に近隣３地区を中心とする集落営農組織を設立した。

3つの集落協定地区が農業機械を共同購入

３つの集落協定地区が共同で交付金を積立。農業用機械（精米機、トラクター、畦塗り機等）を購入して共同利用している。

【共同購入したトラクターでの畔塗作業】

取組の成果

農業機械の利用はオペレター制

共同購入した農業用機械の利用方法は完全にオペレーター制度にし、使い回しはしない。

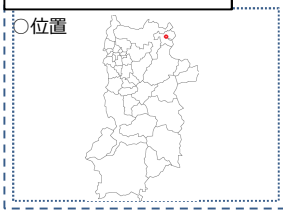
3つの集落協定地区を統合

３つの集落協定地区を統合することで事務の効率化が図られ、さらに持続的な地区を目指している。

【農道の共同管理】

取組地域の概要

○位置



○地域の概要
・奈良県北東部の大和高原地域に位置し、良質な茶の産地である。
○主要作物
・茶、水稲

○集落協定の概要(R3現在)
面　積：18.7ha(田)、12.7ha(畑)
交付金額：175.5万円
（個人配分81.3%、共同取組活動18.7%）
構成員：農業者22人、
協定開始：平成12年度

1　地区の概要

（奈良県北東部の山間高冷地、大和茶の産地）

――地区の概要を教えてください。

本地域は、奈良県北東部の大和高原地域に位置し、良質な茶の産地として知られ、地域産業の基幹となっています。茶産地の中では遅場産地であり、一番茶、二番茶の生産に加え、番茶の生産も多いです。近年では、品質向上のための簡易被覆栽培によるかぶせ茶生産も増加しています。また、標高200m～500mに茶園が位置し、一番茶芽がじっくり伸育することから内容成分が濃厚で二、三煎目でも味と香りの低減が少ないのが特徴です。

昭和40年代に構造改善事業で茶加工場を共同化し、昭和50年代には国営総合農地開発事業「大和高原北部」で農地造成で茶園整備と併せて水田の区画整備を行いました。

それまでは、１～２ha程度の経営規模で16軒の農家が茶園を経営していました。その後、次第にお茶の単価や農業後継者の問題もあり、最終的に２軒の農家、若手の二人が専業農家として農地を守っています。

現在は大手飲料メーカーと契約栽培して安定的な経営をしています。

他は、ほとんどが兼業農家で稲作農家です。

【伏拝集落の茶園風景】

２ 地区の抱える課題

（担い手の高齢化や後継者の課題）

――地区の課題について教えてください。

地域農業の担い手が高齢化し、稲作農家ではそのほとんどが後継者のいない状態にありました。農業者等の担い手だけでは農地の維持が困難なことから、集落営農の育成が課題となってきました。また、地区の農業用水路、農道等の共同管理を行うことも困難になってきました。

【共同活動（水路掃除）】

３ 取組の経緯

（先祖が残してくれた農地、棚田を何とか維持したいとの思い）

――取組を始めた経緯を教えて下さい。

水田での稲作だけでは、収益が見込めない状況の中、それでも先祖が残してくれた農地、棚田を何とか維持しようと頑張っている農家も多くいました。そういった農家を守り、農地が荒れてしまうのを防ぐためにはどうすればいいかを考え、平成12年頃に農業機械の共同購入するため、アンケート調査を実施しましたが、その当時は農業従事者がまだ６０代と若く、これから自分で購入したいという人が多い状況でした。

４ 取組の内容、成果

（農業用機械の共同購入・利用及び集落営農）

――どのような取組を行いましたか？成果を教えてください。

一つの地区での農業者等だけでは農地の維持が困難となる中、平成23年に近隣３地区を中心とする集落営農組織を設立しました。それは交付金を積立てて農業用機械を購入するためで、精米機、トラクター畦塗り機等を共同購入しました。利用方法は完全にオペレーター制度にし、使い回しはしないことにしました。

また、令和２年に農業用機械を共同購入していた３集落協定地区を統合しました。それまで、各々の協定地区で行っていた報告業務の事務処理が一つになったことから大幅に負担軽減になりました。

【共同購入したトラクターと畦塗機】

【畔塗作業の風景】

５ 地区の今後、他の地域に伝えたいこと

――地区の今後について教えてください。

役員の代替がスムーズにされたことによって、若い人が役をやりたくないということがあまりありませんでした。上の世代も若い世代をサポートする体制があり、代表一人に仕事を押しつけるのではなく、地区みんなでやっていこうという意識があったからだと思います。

若くて頑張っている人達をどう助けられるかを考えないといけないと思っています。